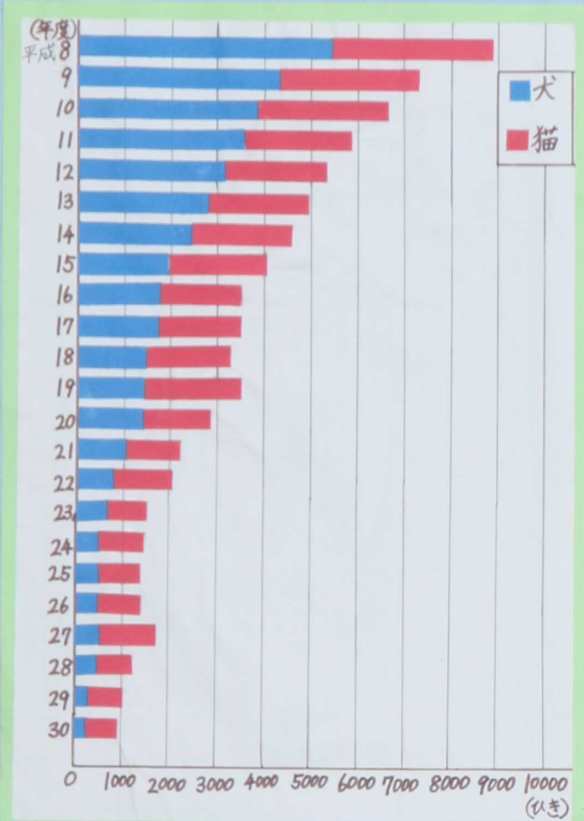


# 保護犬 保護猫

迷子にしないで  
すてないで

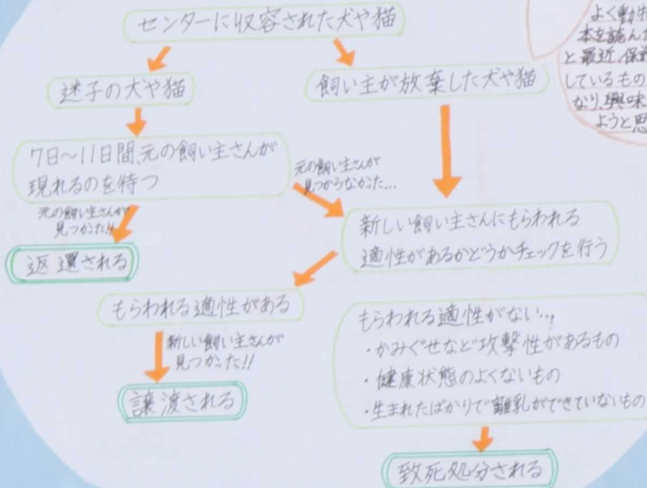


## 犬と猫の収容数

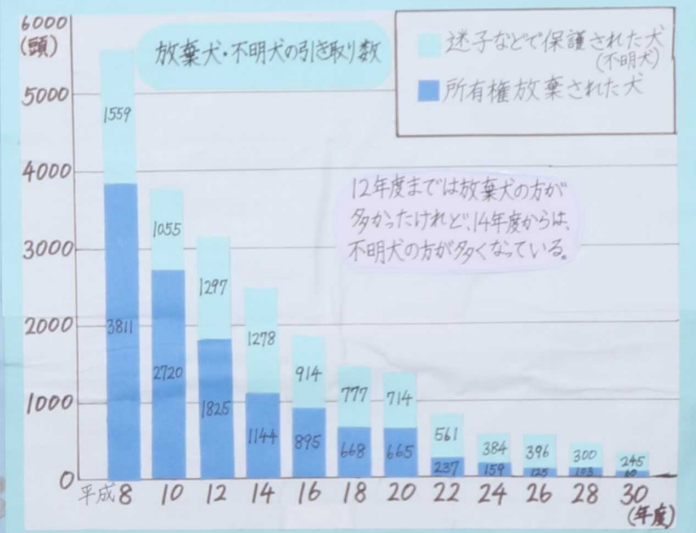


犬と猫の収容数は、30年度は8年度に比べて約半になっている。17年度までは犬の方が多かったけれど、18年度からは猫の方が多くなっている。

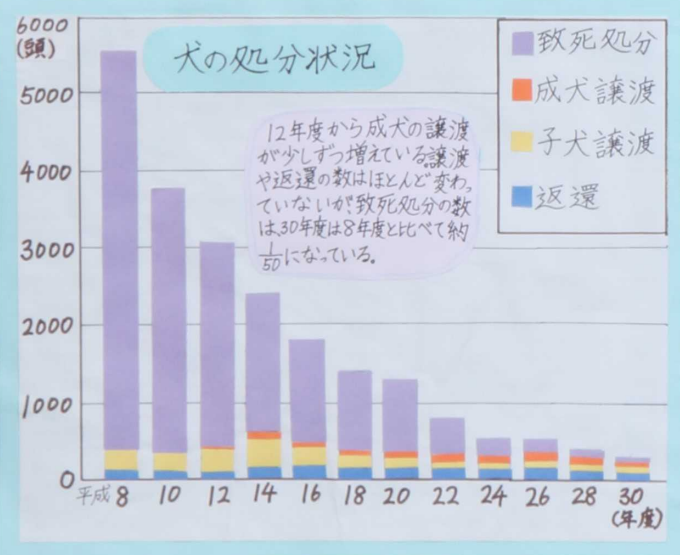
## 動物保護管理センターに収容された犬や猫はどうなるの？



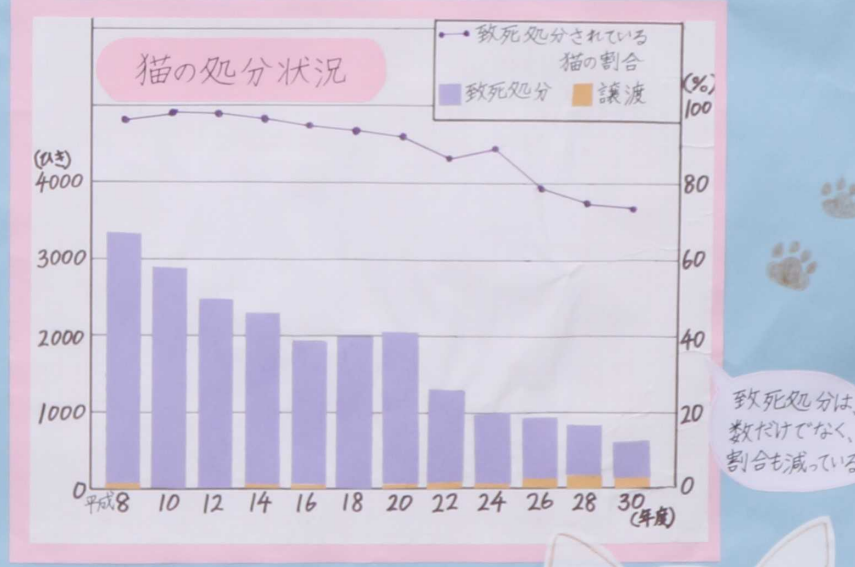
「調べたきっかけ」  
私は動物が好きで、よく動物のテレビを見たり、本を読んだりしています。すると最近、保護犬や保護猫を紹介しているものを多く見るようになり興味を持ち、調べてみようと思いました。



12年度までは放棄犬の方が多かったけれど、14年度からは不明犬の方が多くなっている。

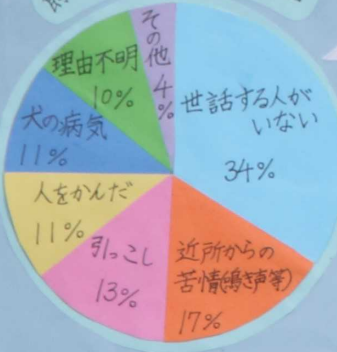


12年度から成犬の譲渡が少しずつ増えている譲渡や返還の数はほとんど変わっていないが、致死処分の数は30年度は8年度と比べて約1/50になっている。



致死処分は、数だけでなく、割合も減っている。

## 飼い主が犬を放棄する主な要因



このような理由で犬を放棄する人がいなくなるには、飼育時に最後まで世話できるか考えたり、しつけをしかりたりすることが必要だと思う。

## 保護猫や元繁殖犬を飼っている人に話を聞きました!!

**保護猫を飼っているMさんの話**  
保護猫を飼育時には、家の広さやこれまでの飼育経験、譲渡予定の猫の特徴の共有などの条件の確認があった。今まで3匹の保護猫を飼ったことがあったが、人間に乱暴されていたところを保護された猫は人がこわくなり、飼育からあんなにつまずき、常にエアコンの上ののりついて、水を飲む時しが降りて来た。

**元繁殖犬を飼っているHさんの話**  
繁殖犬・子犬を産むために飼われている犬と話をした。繁殖犬としての役割を終え、飼い主を探していた犬をもらった。人があまり好きではない、遊んだり散歩に行ったりすることを好きではなく、ほめることもほとんどない家に来た。机の下におくっていることが多かったが、1年経ってお気に入りの場所があった。今までつらい思いをしてきたので幸せにしてあげたいと思って飼育始めた。おとなしく、いやされこちらが幸せをもらっている。今は家族のかけがえのない存在になっている。

「感想」  
致死処分される犬や猫はとて減っていることがわかりました。減っているもの、今でも犬と猫を合わせると1年間で500匹以上が致死処分されていて、おどろきました。致死処分されたり、つらい思いをしたりする動物がいなくなるといいなと思いました。